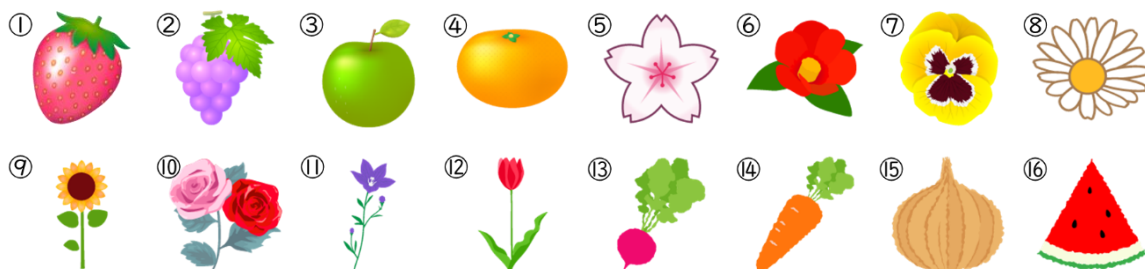


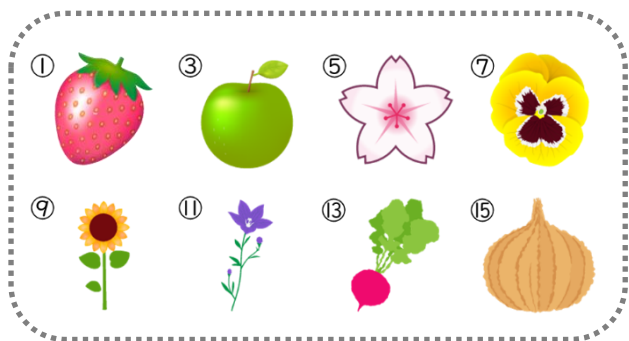
『当て物』

次の絵の中から一つを（心の中で）選んで覚えてください。

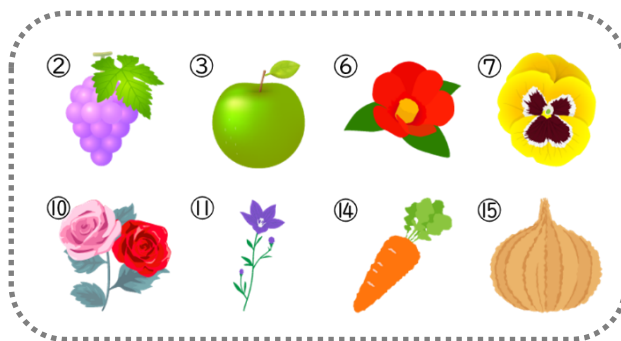


次の4つの質問について、「ある」か「ない」かを答えてください。

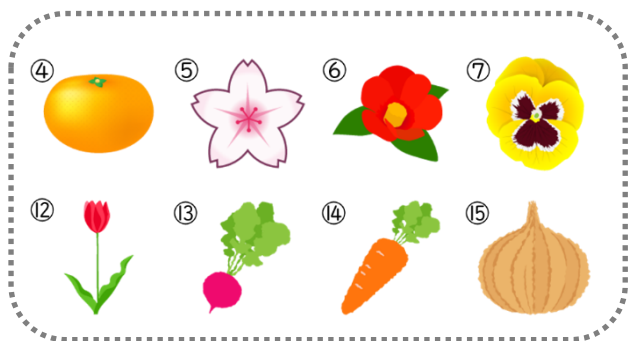
Q-A. この中にありますか？



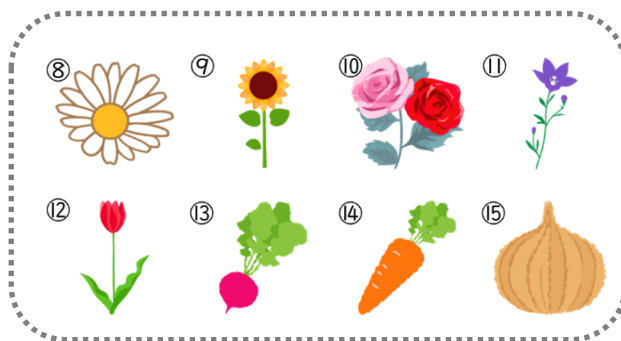
Q-B. この中にありますか？



Q-C. この中にありますか？



Q-D. この中にありますか？



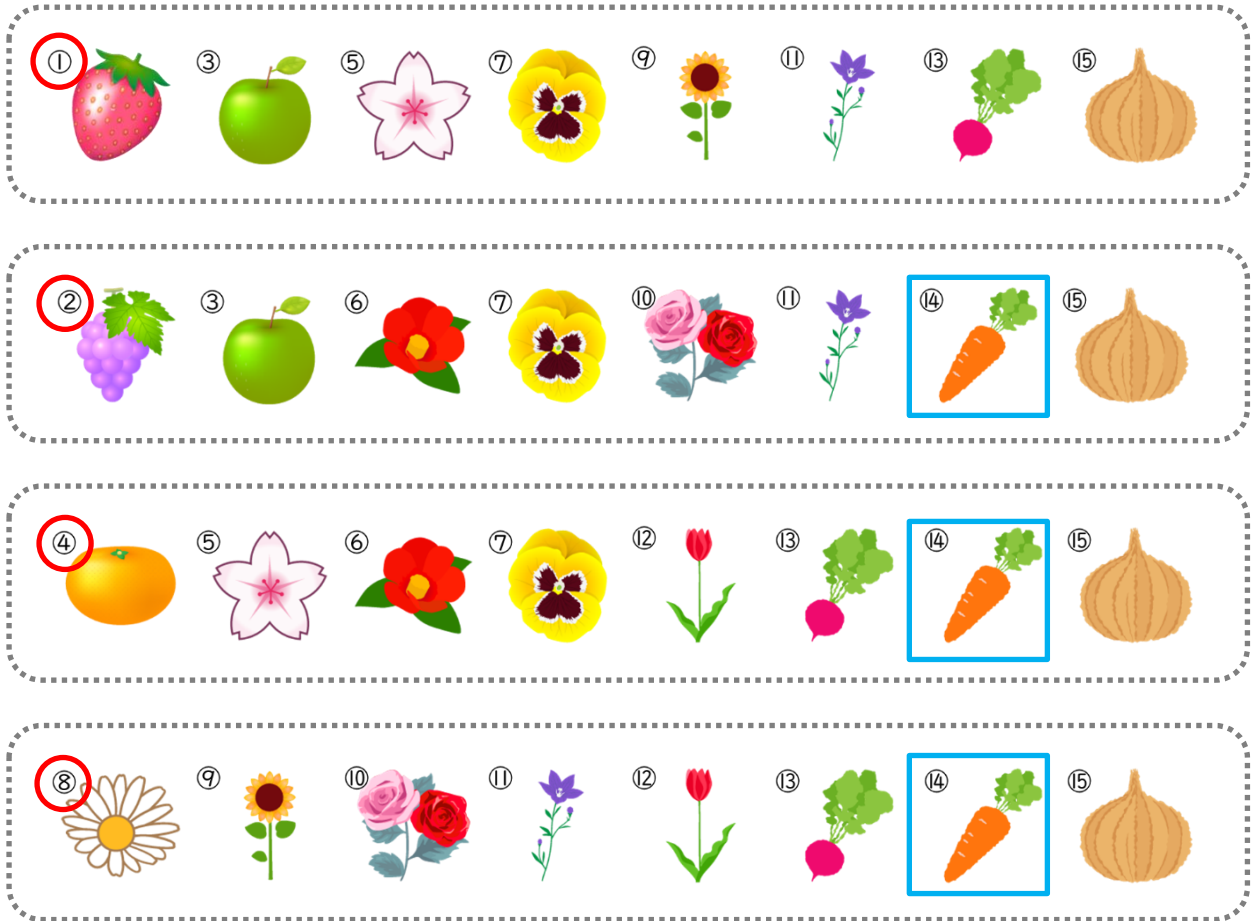
イラスト素材：Flode illustration (<http://flode-design.com/>)

『当て物』

<選んだ絵を当てる仕組み>

選んだ絵が「ある」グループの先頭の数字の和が、選んだ絵の数字と一致します。  
 (16を選んだ場合は、どのグループにも「なし」になります)

(例) ニンジンの場合は「②+④+⑧=14」で14になります。



二進法の考え方で、選んだ絵が「ない=0」「ある=1」の2つの状態と4つの質問で0から15の16個の情報を表せます。

・十進法と二進法の位の比較

十進法		
100の位	10の位	1の位
$10^2$	$10^1$	$10^0$
9	9	9

└ 100が9個   └ 10が9個   └ 1が9個

二進法			
8(の位)	4(の位)	2(の位)	1(の位)
$2^3$	$2^2$	$2^1$	$2^0$
1	1	1	1

└ 8が1個   └ 4が1個   └ 2が1個   └ 1が1個